

保育方法論の新しい展開についての一考察

守谷久代*・辻野孝

A Study on Development of New Methods for Early Childhood Care

Hisayo MORIYA, Takashi TSUJINO

I 保育方法論

園生活の中で、子どもたちは自分を取り巻く環境において、様々な発見をし、気づき、そして自己を成長させていく。それを援助していくのが保育であり、保育方法の原則である。保育方法論の授業において、十分な援助ができる保育を行うことができる保育者を育てるのが目的である。

幼稚園教育要領解説 [1] では、第一章総説の中で「幼稚園教育においては、教育内容に基づいた計画的な環境をつくりだし、その環境にかかわって幼児が主体性を十分に発揮して展開する生活を通して、望ましい方向に向かって幼児の発達を促すようにすること、すなわち『環境を通して行う教育』が基本となるのである。」と述べている。保育者は、子どもたちが、主体性を持って活動し、遊びの中で発達に必要な体験をし、より良い成長ができるよう広い視野に立ち、発達に必要な環境を構成していく必要がある。具体的には、保育者は子どもの活動を見守る中で、アイデアを出したり、共感したり、後押しをしたりしていくことで直接的な援助をしていく。保育者にはそういった役割がある。その役割を果たせる保育者が必要であり、保育現場で役立つ保育者を育てるべく、保育方法論の授業は具体的な内容を学び、内容の目的を深く理解し、それを自ら発展させることができる保育者を育てることが重要となる。

少子化が進み、都市の環境では、空き地なども減り、遊びの場が確保しにくくなっている現在、子どもにとって、十分に遊び尽くせる場所は著しく減少しているといえるだろう。安全な環境を確保でき、多様な遊びが整っている幼稚園や保育園が、子どもの成長の場

所として、重要な位置付けになってきている。園の中で、保育内容、土、砂、水などに触れ、生き物を育て、絵本やおもちゃで楽しみ、ブランコや滑り台などの固定遊具で遊び、運動会、誕生会など様々な行事に参加する。こうした園生活の中で、子どもは安心して遊び込むことが出来る。

その環境作りをし、子どもの成長に適した保育方法が構築できる保育者が求められるのである。

この授業では、できる限り多くの保育方法の概念について知り、十分に理解し、目の前にいる子どもにとって、何が最善の保育方法であるか、その場にいる保育者自らが考え、判断し、保育していく力を身につけることを目的とし、次の2点を到達目標に挙げ授業を実施した。

- ① 保育方法の概念について知り、理解する
- ② 発達時期に応じた保育方法を考えることができる

本稿では、「保育方法論」における授業実践の内容、受講生に対するアンケート結果およびその考察をととして、従来の保育方法論で終わることなく、広い分野を見据えて今後の保育方法論における新しい保育教材および方法を示唆するものである。

II 授業内容

授業内容の各項目について述べる。

1. 人形作り

人形作りを通して、教材研究の取り組み方、教材の選び方への理解を深めることを目的とした。教材を探すことにより、絵本などの保育教材・保育環境に対す

* 京都光華女子大学短期大学部 非常勤講師

る興味関心も自ずと深まり、より幅の広い視点で、人形作りに取り組むことができた。また、子どもたちの目線で教材作りをする視点も持つことができたと思われる。

人形作りは、フェルトを用い、手にはめる形をベースにして、人間・キャラクター・動物・道具など、様々な個性を持った人形が作られた。各自の人形を展示した評価会をして、それぞれ作られた人形の「アイデア・工夫・作りの丁寧さ」に気づくようにした。評価会によって、各自に新しい発見や気づきがあり、評価会は効果的なものであった。

2. 劇

教材研究で作成した人形を使い、具体的な保育を想定して、人形劇を行った。

数名のグループに分け、絵本の内容を忠実に演じるグループもあれば、オリジナルのストーリーを創りだしたグループもあり、また、一名あるいは少人数で何役も演じるなど、バリエーションに満ちた人形劇が繰り広げられた。

他のグループの劇を観て、感心したり、参考にしたりと、今後、保育現場で実際に人形劇を演じる場面を想定し、今回行った人形劇の反省点について発言もあり、保育教材の一つの視点にも繋がったと考えられる。

3. おりがみ

情報機器を使った教材の利用は、これからますます重要になっていく。ウェブで調べられる保育教材の一つとして、折り紙 [6] を取り上げた。

折り紙は、手の巧緻性や空間認知を伸ばす上で有効な教材といえるが、ネット上の折り紙資料は動画での解説があり、分かりやすい教材研究として活用することを促した。

4. 発達障がい児体験

現在、クラスの1割ほどはいると考えられる発達障がい児への保育を学ぶ機会は少ない。また、乳幼児の発達障がいは見過ごされることが多い。そこで、具体的な理解で、発達障がいに対する認識を速やかに深めることができるように疑似体験を行った。

(1) 言葉の理解

多くの人がイメージしやすい絵で表せる言葉は、発

達障がい児にも理解しやすい。

しかし、様々なイメージに分かれる言葉は発達障がい児には把握しにくい言葉である。その点を、絵を描くことによって、気づかせ、発達障がい児の言葉の理解度について、指導した。

(2) 視野について

発達障がい児は視力に問題は無くとも、視野については健常児と異なり、自分がおかれている環境の全てを把握しにくい面を持っている。

その点を、クリアファイルを使い、体験させた。クリアファイルで視野を狭くし、発達障がい児が認識・理解しやすい範囲が非常に狭いことを認識させた。その狭さにより、人との距離感がわかりづらくトラブルを起こしやすいこと、認識する範囲が狭いことから、片付けが苦手なことなど、その原因を理解することができた。

疑似体験をすることにより、分かりやすく、具体的な場面を実際に感じ取ることができ、現場での発達障がい児の保育にも役立つという意識が芽生えた。

5. 園だより作り

園だより作りは、園だよりについての理解を深めるとともに、日本語ワープロについての技術の向上を目的としている。そして、具体的な演習課題で基本を学び、応用できるようになることを期待している。

園だよりは、架空の幼稚園または保育園を想定し、次の手順に沿って作成した。

- (1) 園だよりの紹介
- (2) 項目の比較
- (3) レイアウトの検討
- (4) 作成

(1) 園だよりの紹介

まず、園だよりについて理解を深めることを目的として、実際の園だよりについて学習した。

最初に、同じ学園に所属する光華幼稚園の園だよりを配布して園だよりについて解説し、次に、滋賀短期大学付属幼稚園の園だよりについて解説した。また、ウェブで公開している園だよりの例として、園のウェブサイトを検索し、園だよりを見るための手順についても解説した。

さらに、ウェブ検索演習の一環として、園だよりを探す演習をした。最初に出身園や実習先、就職を希望する園を探そう指導し、園のウェブサイトが見つからない、もしくは園だよりを公開していない場合は、他の園の園だよりを探そう指導した。

(2) 項目の比較

園だよりについての理解を深めてから作成に活かすために、図1のような「項目比較シート」を学生に配布して、先に解説した2園の園だよりと、自分で探した園の3つの園だよりの項目を比較させた。

(3) レイアウトの検討

項目の比較結果を見ながら、作成する仮想の園の園だよりの項目を決め、レイアウト案を作成する。レイアウトには、出版・ウェブで使われているグリッドデザインを応用した。図2のような縦6マス×横6マスのレイアウト検討シートを配布し、各自の項目分析の結果からレイアウトを検討させた。

(4) 作成

Wordを使用して園だよりを作成する演習を実施した。

まず、用紙サイズはA4のままで、印刷の向きを「横」、余白を「狭い」に設定する。次に6×6マスの表を挿入し、この表を使って各項目をレイアウトした。各マス目は必要に応じて結合や分割をすることで、自由にレイアウトを作成できる。なお、この枠線は「なし」に設定すれば、印刷されない。タイトルにワードアート、その他フリー画像 [7][8] と文章、カレンダーに表を使って作成するよう指導した。

6. 「千里敬愛幼稚園」

絵画・造形活動における先進的な取り組みをしている幼稚園の例として「千里敬愛幼稚園」のウェブサイト [9] を紹介した。この園は、園児による造形活動に力を入れており、子ども能力の可能性を見せてくれる。

ウェブサイトの内容は、描画・壁面制作集の他に、いわゆるキャラ弁のお弁当の写真が紹介されており、学生が考えるきっかけになると考えている。また、日ごろの園児たちに何気ない一言を集めた「子どものつぶやき集」が紹介されており、園児たちの生き生きとした様子を感じ取ることができる。

7. 「ニューカラーパラダイス」

実習や就職後の保育現場で教材として使えるウェブサイトの一つとして「ニューカラーパラダイス」 [10] を紹介した。コンテンツは、平面や立体の造形プログラムの紹介（動画付き）、紙素材の紹介などである。

具体的なウェブサイトを紹介し、自分で閲覧して役に立ちそうであることを実感することも目的の一つである。

8. 「保育CAN」

授業の実施年度によっては、学研が運営しているウェブサイト「保育CAN」 [11] を紹介した。

Ⅲ アンケート

この授業の目的が達成できているかどうかを調べるために、受講者に対してアンケートを実施した。対象は、2013年度の「保育方法論 a」と「保育方法論 b」の履修登録者の70名である。質問票を図1に示す。

70名中63名から回答を得た。回収率は90.0%である。結果を表1、表2に示す。また、そのグラフの図4、図5に示す。

Ⅳ 考察

学生は、「先生になる」というモチベーションを持って養成校に入学してくる。しかし、短期大学での2年間において、そのモチベーションを保ち、積極的な学びを継続するためには、学びについての興味・関心を維持し、授業内容に必要性・必然性を感じることが必要である。

学びについてのモチベーションを持ち続けるためには、そこでの学びが将来につながっていると認識できることが不可欠である。そのためには、学びの内容が明確かつ具体的であり、保育現場で必要もしくは必要であると思える内容でなければならない。保育方法の授業では、特にその要素が求められているといえるだろう。

以下、今回のアンケート結果について考察する。

園だよりについての質問において「そう思う」と「やや、そう思う」の合計が全て80%以上であったということは、これが毎月発行するもので、保護者向けと

いうこともあり、学生にとっては、きちんとしたものが作れるだろうかという不安がある分、関心を持ち、意欲的に取り組んだ結果と言える。

また、発達障がい児に関する質問では、「発達障がいの園児に対する保育方法は工夫が必要だと思った」という項目で、「そう思う」73.0%と「やや、そう思う」23.8%を合わせると96.8%となり、ほぼ全員が強く関心を持ち、現場でのイメージを膨らませ、保育方法の工夫に必要性を感じていることが見てとれる。

これは、具体的な疑似体験により、興味関心を持った学生が、現場に出た時に自ら工夫していかなければならないという自覚の表れといえるだろう。また、次の「知識や保育方法をもっと知りたい」という項目でも、「そう思う」「やや、そう思う」を合わせて93.7%であることから、ほとんどの学生が前向きに取り組もうとする姿が見られる。

全体として、保育者を目指している学生は、従来の保育教材についてはある程度の知識も持ち、自信も持っていることがうかがえる。アンケートの「そう思う、ややそう思う」の数値はそれを表しており、学生自身が教材について少なからず自信があるところも見せていると思われる。しかし、手書きによるものではなく、パソコンを活用した園だよりなど、情報機器を活用して作成するもの、メディアの利用の方法について、自分たちの苦手意識を持ったものや、発達障がい児への知識や保育方法など、従来の保育教材とは違った分野で、保育方法に工夫が必要なものに対しては、大いに必要性を感じていることがうかがえる。

アンケートの質問項目の「この内容は今後の実践に役立つ」と「この内容に興味が持てる」において、「園だより」と「千里敬愛幼稚園」・「ニューカラーパラダイス」との間に差が見られる。特に質問項目の「今後の実践に役立つ」では、「園だより」が「そう思う」が74.6%であるのに対して、「千里敬愛幼稚園」・「ニューカラーパラダイス」はそれぞれ50.8%、54.2%であった。この差は、内容が保育現場を想定した具体的なものであるかどうかの差であり、それによって学ぶ意義が学生にどう伝わったかの差であると考えられる。このことから、学生に、基礎的な事項を理解しやすく伝えるために、できるだけ具体的な内容で伝えることが必要であることが分かる。

質問10の「パソコン活用の必要性について」では、

2項目とも「そう思う」が63.5%と高く、「やや、そう思う」と合わせると、園での活用については92.1%、保育者については88.9%と高い値になっている。このことから、学生はパソコン活用の必要性については十分認識しているということがうかがえる。

今や多くの家庭にパソコンがあり、身近なツールとして活用されている中、学生も保育現場でパソコンを使うことはイメージしやすくなっているのだろう。また、現在、ほぼ全ての学生がスマートフォンを所持しており、ウェブはもちろんのこと、写真撮影、ゲーム、音楽再生等、活用範囲は多岐に渡っている。学校・幼稚園・保育所などは、常に個人情報流出の危機に直面しているため、今後は、スマートフォンの様々な使用方法を考慮した上で、その活用方法を授業に取り入れていく必要がある。

このため、個人情報の流出やSNSをはじめとするソーシャルメディア、個人情報の取り扱い方についても養成校において詳しく教育する必要がある。

しかし、パソコン・スマートフォンといった情報機器、SNSやメールといったインターネットにおけるコミュニケーション手段を含むICT分野は進歩や変化が著しい。そこで、研修等で養成校が担うことができる事項は多いであろうし、研究成果を社会に還元する点からも積極的に関わっていく必要がある。

ICT分野の発達によりソーシャルメディアやウェブを利用することで、卒業生への情報提供やコミュニケーションが以前よりも容易になってきた。養成校は、保育技術といった資質向上のため、卒業後も学び続けることができる資質を持った保育者の養成が必要であり、我々が授業で取り扱ったような保育に関する新しい知見や保育技術をこれらの技術を利用して卒業生に伝えることで、保育者の資質向上に貢献できる可能性が高い。

文部科学省や中央教育審議会で議論が進んでいるように、ICT分野を含めて教員の資質向上は喫緊の問題である[12]。今後、養成校にも社会的責任を果たすことが求められることになるであろう。

参考文献

- [1] 文部科学省「幼稚園教育要領解説」フレーベル館、1999

図3 アンケート質問票

保育方法論 アンケート

※このアンケートは守谷・辻野の今後の授業や研究に使用し、成績に反映しません。

1. 保育方法論で扱った内容について質問します。

保育方法論の授業については、保育に役立つ実践的な内容が知りたい

そう思う やや、そう思う どちらともいえない やや、そう思わない そう思わない

保育方法論の授業については、幅広く役立つ内容が知りたい

そう思う やや、そう思う どちらともいえない やや、そう思わない そう思わない

2. 「人形作り」について質問します

この内容は興味もてる

そう思う やや、そう思う どちらともいえない やや、そう思わない そう思わない

この内容は今後の実践に役に立つ

そう思う やや、そう思う どちらともいえない やや、そう思わない そう思わない

この内容はわかりやすい

そう思う やや、そう思う どちらともいえない やや、そう思わない そう思わない

3. 「劇」について質問します

この内容は興味もてる

そう思う やや、そう思う どちらともいえない やや、そう思わない そう思わない

この内容は今後の実践に役に立つ

そう思う やや、そう思う どちらともいえない やや、そう思わない そう思わない

この内容はわかりやすい

そう思う やや、そう思う どちらともいえない やや、そう思わない そう思わない

4. 「おりがみ」について質問します

この内容は興味もてる

そう思う やや、そう思う どちらともいえない やや、そう思わない そう思わない

この内容は今後の実践に役に立つ

そう思う やや、そう思う どちらともいえない やや、そう思わない そう思わない

この内容はわかりやすい

そう思う やや、そう思う どちらともいえない やや、そう思わない そう思わない

5. 「園だより」について質問します

この内容は興味もてる

そう思う やや、そう思う どちらともいえない やや、そう思わない そう思わない

この内容は今後の実践に役に立つ

そう思う やや、そう思う どちらともいえない やや、そう思わない そう思わない

この内容はわかりやすい

そう思う やや、そう思う どちらともいえない やや、そう思わない そう思わない

6. 「千里敬愛幼稚園のウェブサイト（子どものつぶやき集、お弁当、描画&壁面制作）」について質問します
この内容は興味もてる

そう思う やや、そう思う どちらともいえない やや、そう思わない そう思わない

この内容は今後の実践に役に立つ

そう思う やや、そう思う どちらともいえない やや、そう思わない そう思わない

この内容はわかりやすい

そう思う やや、そう思う どちらともいえない やや、そう思わない そう思わない

7. 「ニューカラーパラダイス（造形プログラム）」について質問します
この内容は興味もてる

そう思う やや、そう思う どちらともいえない やや、そう思わない そう思わない

この内容は今後の実践に役に立つ

そう思う やや、そう思う どちらともいえない やや、そう思わない そう思わない

この内容はわかりやすい

そう思う やや、そう思う どちらともいえない やや、そう思わない そう思わない

8. 保育方法論の授業で扱ったもので、将来での実践に1番役に立つと思うものを①とし、順に番号を付けてください。

	人形作り		園だより作り
	劇		千里敬愛幼稚園のウェブサイト
	おりがみ		ニューカラーパラダイス（造形プログラム）

9. 発達障がい児擬似体験と保育方法について質問します
発達障がい児について興味を持つようになった

そう思う やや、そう思う どちらともいえない やや、そう思わない そう思わない

発達障がい児についての理解が深まった

そう思う やや、そう思う どちらともいえない やや、そう思わない そう思わない

発達障がいの園児に対する保育方法は工夫が必要だと思った

そう思う やや、そう思う どちらともいえない やや、そう思わない そう思わない

発達障がいの園児に対する知識や保育方法をもっと知りたいと思う

そう思う やや、そう思う どちらともいえない やや、そう思わない そう思わない

10. パソコン活用の必要性について質問します
園でのパソコン活用（園だよりやネット検索等）のについて必要と思う

そう思う やや、そう思う どちらともいえない やや、そう思わない そう思わない

保育者のパソコン活用力について、保育者もパソコンができたほうがいいと思う

そう思う やや、そう思う どちらともいえない やや、そう思わない そう思わない

表1 質問8以外の結果

	そう思う	やや、そう思う	どちらともいえない	やや、そう思わない	そう思わない
1. 保育方法論で扱った内容について質問します。					
[1-1] 保育方法論の授業については、保育に役立つ実践的な内容が知りたい	34 (54.8%)	18 (29.0%)	9 (14.5%)	1 (1.6%)	0 (0.0%)
[1-2] 保育方法論の授業については、幅広く役立つ内容が知りたい	28 (44.4%)	24 (38.1%)	11 (17.5%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
2. 「人形作り」について質問します					
[2-1] この内容は興味が持てる	34 (54.0%)	19 (30.2%)	7 (11.1%)	2 (3.2%)	1 (1.6%)
[2-2] この内容は今後の実践に役に立つ	37 (58.7%)	18 (28.6%)	6 (9.5%)	2 (3.2%)	0 (0.0%)
[2-3] この内容はわかりやすい	30 (47.6%)	27 (42.9%)	5 (7.9%)	1 (1.6%)	0 (0.0%)
3. 「劇」について質問します					
[3-1] この内容は興味が持てる	30 (47.6%)	23 (36.5%)	8 (12.7%)	2 (3.2%)	0 (0.0%)
[3-2] この内容は今後の実践に役に立つ	37 (58.7%)	21 (33.3%)	5 (7.9%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
[3-3] この内容はわかりやすい	29 (46.0%)	25 (39.7%)	8 (12.7%)	1 (1.6%)	0 (0.0%)
4. 「おりがみ」について質問します					
[4-1] この内容は興味が持てる	23 (36.5%)	24 (38.1%)	12 (19.0%)	1 (1.6%)	3 (4.8%)
[4-2] この内容は今後の実践に役に立つ	32 (50.8%)	20 (31.7%)	7 (11.1%)	2 (3.2%)	2 (3.2%)
[4-3] この内容はわかりやすい	26 (41.3%)	19 (30.2%)	13 (20.6%)	3 (4.8%)	2 (3.2%)
5. 「園だより」について質問します					
[5-1] この内容は興味が持てる	35 (59.3%)	18 (30.5%)	6 (10.2%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
[5-2] この内容は今後の実践に役に立つ	44 (74.6%)	11 (18.6%)	4 (6.8%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
[5-3] この内容はわかりやすい	28 (47.5%)	22 (37.3%)	8 (13.6%)	1 (1.7%)	0 (0.0%)
6. 「千里敬愛幼稚園のウェブサイト（子どものつぶやき集、お弁当、描画&壁面制作）」について質問します					
[6-1] この内容は興味が持てる	28 (47.5%)	25 (42.4%)	5 (8.5%)	1 (1.7%)	0 (0.0%)
[6-2] この内容は今後の実践に役に立つ	30 (50.8%)	22 (37.3%)	6 (10.2%)	1 (1.7%)	0 (0.0%)
[6-3] この内容はわかりやすい	27 (45.8%)	26 (44.1%)	6 (10.2%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
7. 「ニューカラーパラダイス（造形プログラム）」について質問します					
[7-1] この内容は興味が持てる	32 (54.2%)	18 (30.5%)	8 (13.6%)	1 (1.7%)	0 (0.0%)
[7-2] この内容は今後の実践に役に立つ	32 (54.2%)	20 (33.9%)	7 (11.9%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
[7-3] この内容はわかりやすい	25 (42.4%)	26 (44.1%)	7 (11.9%)	1 (1.7%)	0 (0.0%)
9. 発達障がい児疑似体験と保育について質問します					
[9-1] 発達障がい児について興味を持つようになった	33 (52.4%)	26 (41.3%)	3 (4.8%)	1 (1.6%)	0 (0.0%)
[9-2] 発達障がい児についての理解が深まった	35 (55.6%)	24 (38.1%)	4 (6.3%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
[9-3] 発達障がいの園児に対する保育方法は工夫が必要だと思った	46 (73.0%)	15 (23.8%)	2 (3.2%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
[9-4] 発達障がいの園児にたいする知識や保育方法をもっと知りたいと思う	43 (68.3%)	16 (25.4%)	4 (6.3%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
10. パソコンの活用の必要性について質問します					
[10-1] 園でのパソコンの活用（園だよりやネット検索等）の必要性について必要と思う	40 (63.5%)	18 (28.6%)	4 (6.3%)	1 (1.6%)	0 (0.0%)
[10-2] 保育者のパソコン活用力について、保育者もパソコンができたほうが良いと思う	40 (63.5%)	16 (25.4%)	7 (11.1%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)

() 内は割合

表2 質問8の結果

	1位	2位	3位	4位	5位	6位
8. 保育方法論の授業で扱ったもので、将来での実践に1番役に立つと思うものを①とし、順に番号を付けてください。						
[8-1] 人形作り	9 (16.4%)	15 (27.3%)	19 (34.5%)	6 (10.9%)	6 (10.9%)	0 (0.0%)
[8-2] 劇	6 (10.9%)	11 (20.0%)	11 (20.0%)	11 (20.0%)	10 (18.2%)	6 (10.9%)
[8-3] おりがみ	2 (3.6%)	11 (19.6%)	9 (16.1%)	9 (16.1%)	8 (14.3%)	16 (28.6%)
[8-4] 園だより作り	40 (67.8%)	8 (13.6%)	5 (8.5%)	1 (1.7%)	2 (3.4%)	2 (3.4%)
[8-5] 千里敬愛幼稚園のウェブサイト	2 (3.6%)	1 (1.8%)	9 (16.4%)	12 (21.8%)	16 (29.1%)	15 (27.3%)
[8-6] ニューカラーパラダイス (造形プログラム)	3 (5.5%)	13 (23.6%)	6 (10.9%)	12 (21.8%)	9 (16.4%)	12 (21.8%)

() 内は割合

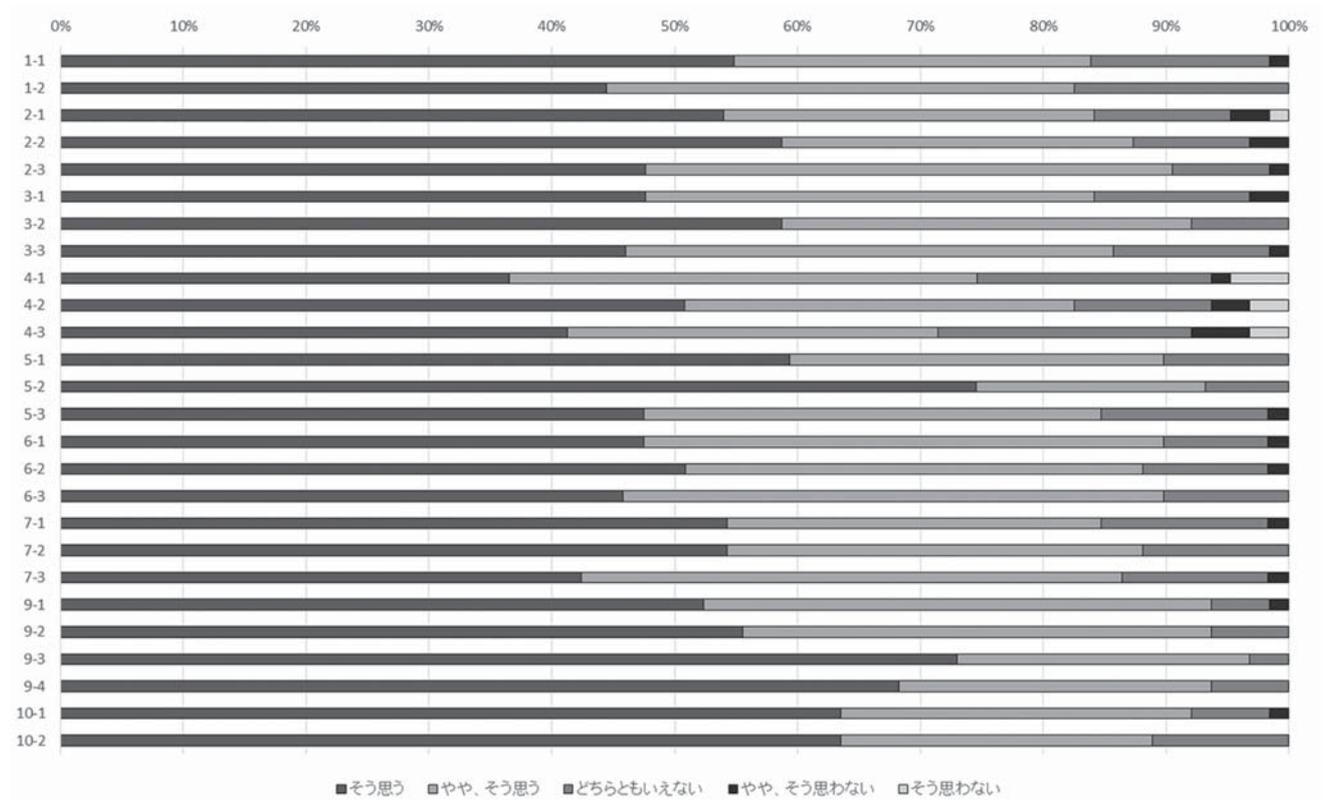


図4 質問8以外

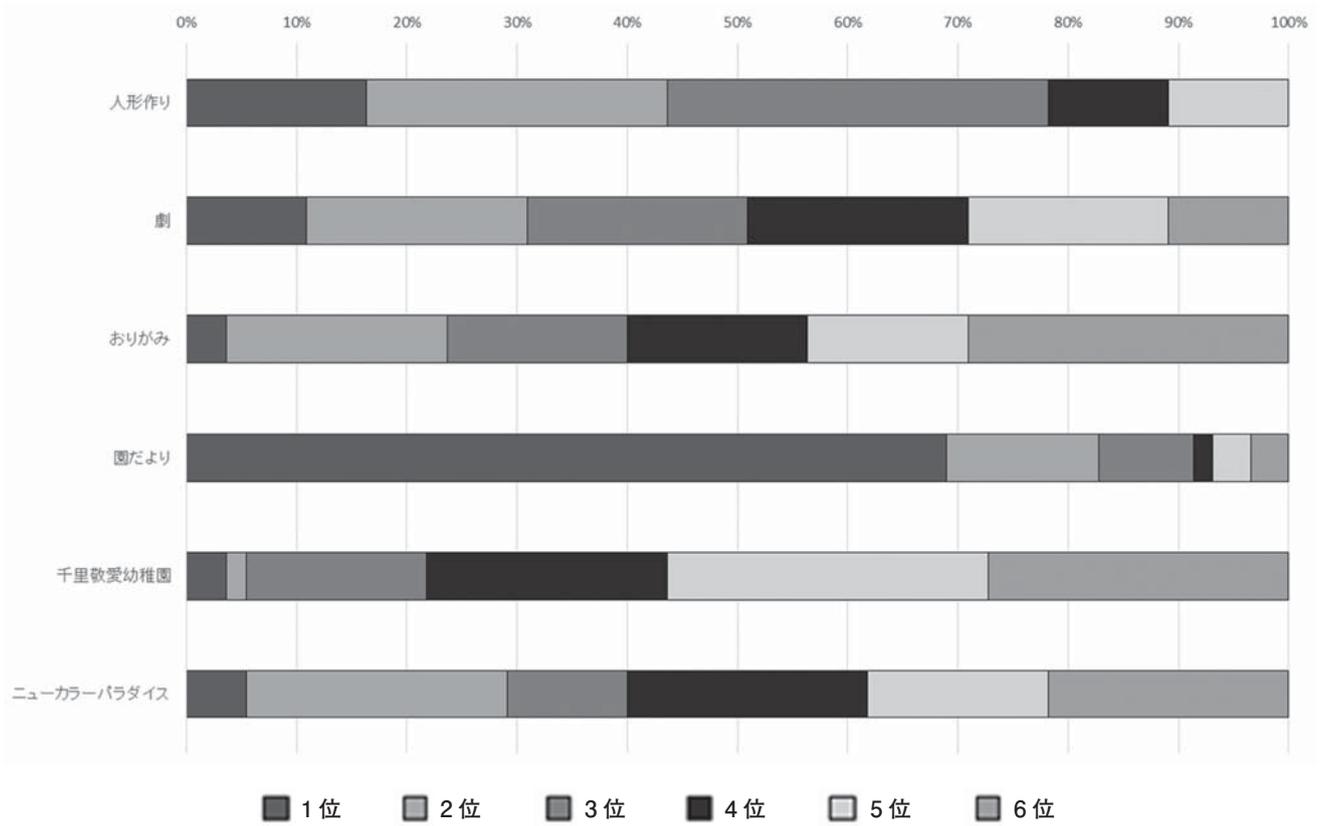


図5 質問8

